

| | |
|--------------------|--|
| 2. 事業の概要と成果 | |
| (1) 上位目標 | 上位目標: 対象地域における母子保健 (MNCH) 状況が改善する |
| (2) 事業内容 | <p>活動は概ね計画どおりに進捗しており、本報告期間 (2013 年 7 月 7 日～10 月 31 日) に以下の活動を実施した。効果に関する写真は別添を参照されたい。</p> <p>活動 0 : 事業調整活動</p> <p><u>活動 0-1 : 現地スタッフの雇用および能力開発トレーニング</u> 本事業開始に伴い 46 人のスタッフを雇用した。2013 年 8 月 5 日～9 日の 5 日間、雇用したスタッフを対象にコミュニティーモービライゼーションおよび PRA (参加型農村調査手法) 研修 (講義ならびにオンザジョブトレーニング形式) を実施し、コミュニティーを如何に活動に巻き込むか、アドボカシーとは何か、効果的なコミュニケーション方法とは、といった内容を学んだ。本格的にコミュニティーでの活動を開始する前に実践的な知識・技術を得られたことで、スタッフのモチベーションは大きく向上した。</p> <p><u>活動 0-2 : アドボカシーミーティングの開催 (県レベル)</u> コーカン自治政府の中央委員会、ミャンマー政府保健省、国境省、国家計画経済開発省、コーカン自治地域で活動する他 NGO、国連世界食糧計画 (World Food Programme : WFP) など関係機関参加のもと、県レベルのアドボカシー集会を実施した。集会では本事業概要および先行事業 (母子保健事業 : 2010 年 7 月～2013 年 7 月、日本 NGO 連携無償資金協力) の成果・課題を共有した。コーカン自治政府からは准助産師 (Auxiliary Mid Wife、以下 AMW) 育成活動について、また他の NGO からは救急患者の搬送システムに高い関心が寄せられた。なお、コーカン自治政府が国会対応に追われていたため、本集会は当初計画の 2013 年 8 月から約 1 カ月弱遅れた 9 月 1 日の実施となった。</p> <p><u>活動 0-3 : アドボカシーミーティングの開催 (村区レベル)</u> 2013 年 9 月～10 月にかけて、本事業対象 114 村を 21 か所に分けて村区レベルのアドボカシー集会を実施した。集会には村区長、村長、副村長、長老、母親グループ (先行事業で育成されたボランティア)、母親たち、基礎保健スタッフ (Basic Health Staff、以下 BHS)、教師など合わせて 1,192 人が参加し、本事業概要および先行事業の成果・課題を共有した。出席者からは AMW 育成トレーニング、MNCH (Maternal, Newborn and Child Health) プロモーターの役割、緊急患者の搬送基金設立等の活動に高い関心が寄せられた。</p> <p><u>活動 0-4 : ベースライン調査の実施</u> 2013 年 9 月～10 月にかけて、妊産婦健診の受診状況、出産介助者の状況、予防接種や妊娠時の危険兆候の知識、公共保健サービスに関する知識などを把握するためのベースライン調査を実施した。</p> <p>活動 1 : 地域に根差した母子の健康を増進する活動環境整備 本報告期間中は、2013 年 11 月に予定している MNCH ワークショップの開催準備、MNCH プロモーターが利用する啓発グッズ案の検討を行った。</p> |

活動 2：保健行政スタッフ（基礎保健スタッフ、准助産師）の育成・技術向上支援

活動 2-1：AMW の育成トレーニングの実施支援

2013 年 12 月から開始を予定している AMW 育成トレーニングについて、育成カリキュラムや通訳手配などについて、ラオカイ県保健局長と協議を進めた。訓練候補生の募集についてはアドボカシー集会（活動 0-3）などを通じて広く周知している他、2013 年 11 月に予定している MNCH ワークショップでも候補生を募っていく。

活動 2-2：BHS のリフレッシュートレーニングの実施支援

BHS を対象としたリフレッシュートレーニング（毎月 1 回 1 日間）を 2013 年 10 月に開始した。当初参加者はコーカン自治地域に勤務する BHS13 人を予定していたが、ラオカイ県保健局よりラオカイ県病院、チンシュウエホ地域拠点病院、ターシュウエタン地域拠点病院の医療スタッフ 3 人もトレーニングに加えるよう要請があり、本事業の上位目標に貢献すると考えられることから本要請を受け入れ、16 人を対象にトレーニングを実施することとした。妊婦健診をトピックに行った初回のトレーニングには、対象全 16 人が参加した。これまであまりリフレッシュートレーニングの機会に恵まれていなかった参加者は熱心に聞き入り、知識・技術の再確認ができただけでなく、モチベーションの向上にもつながった様子が確認された。なお今後予定しているトレーニング実施内容は以下のとおり。

| 回数 | 実施予定日 | トピック |
|----|-------------|-----------|
| 1 | 10 月 31 日実施 | 妊婦健診 |
| 2 | 11 月 29 日 | 産後健診 |
| 3 | 12 月 31 日 | 結核 |
| 4 | 1 月 31 日 | 統計 |
| 5 | 2 月 28 日 | 栄養 |
| 6 | 3 月 31 日 | 下痢 |
| 7 | 4 月 30 日 | デング熱 |
| 8 | 5 月 30 日 | マラリア |
| 9 | 6 月 30 日 | 急性呼吸器性感染症 |

活動 3：母子保健サービス提供支援

活動 3-1：コミュニティによる「子どもの成長記録活動」の支援

対象全 114 村において、本事業スタッフ補助のもと、先行事業にて育成されたボランティア（母親グループ）が中心となって毎月子どもの成長記録活動を実施した。また、性と生殖に関する健康、個人衛生、栄養に関する健康教育についても、母親グループが中心となって実施した。

子ども（6 カ月～5 歳未満）の成長記録実績

| 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 2,108 | 2,226 | 2,185 | 2,337 | 8,856 |

活動 3-2：公的保健医療機関による予防接種活動実施支援

ラオカイ県保健局による以下の予防接種活動を側面支援し、今期はのべ 539 人の母子が予防接種を受けることができた。予防接種活動は主に公共医療機関施設（EPI day）、もしくは遠隔村を BHS が訪問するアウトリーチ活動にて提供されており、実施日は地域によって異なる¹。本事業スタッフは、各地での予防接種活動にて、事前の実施日通知、ワクチン運搬および予防接種を行う BHS の移動支援、予防接種時の通訳²などを行った。

| 管轄公的 医療機関 | 月 | 7 月 | | 8 月 | | 9 月 | | 10 月 | | 合計 |
|--------------|---------------|------------|----|------------|----|---------|----|------------|-----|-----|
| | 実施 種別 | EPI day | 村 | EPI day | 村 | EPI day | 村 | EPI day | 村 | |
| ターシュ ウエタン | 実施 回数 | 1 | - | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 10 |
| | 接種 者数 * | 19 | - | 7 | 33 | 26 | 24 | 32 | 38 | 179 |
| コン チャン | 実施 回数 | - | - | 2 | - | 2 | - | 2 | - | 6 |
| | 接種 者数 | - | - | No data | - | 41** | - | 54 | - | 95 |
| チャー ジーシオ | 実施 回数 | - | 3 | - | 2 | - | 3 | - | - | 8 |
| | 接種 者数 | - | 84 | - | 32 | - | 50 | - | - | 166 |
| モンロー | 実施 回数 | - | - | - | - | - | - | - | 7 | 7 |
| | 接種 者数 | - | - | - | - | - | - | - | 99 | 99 |
| 合計 | 実施 回数 | 1 | 3 | 3 | 4 | 3 | 5 | 3 | 9 | 31 |
| | 接種 者数 | 19 | 84 | 7*** | 65 | 67*** | 74 | 86 | 137 | 539 |

*妊婦（破傷風）および子ども（BCG、麻疹、ポリオ他）含む。

**2 回のうち 1 回はデータなし。

***3 回実施のうち 1 回の受診者数のデータ含まず。

活動 3-3：リプロダクティブヘルスサービスの提供

BHS と本事業医療スタッフが妊婦健診、産後健診、微量栄養素配布を行った。実績は以

¹ ターシュウエタン地区では地域保健センターにて月に一度、市が立つ日（5 日毎）から選んで実施されている。シャオカイ地区では月の最後の市の日にコンチャン郡病院スタッフが当法人シャオカイ出張事務所にて実施している。コンチャン郡病院およびラオカイ県病院においては、市が立つ日（5 日毎）すべてで実施される。当法人スタッフは主にターシュウエタン地域保健センター、当法人シャオカイ出張事務所で行われる予防接種活動における通訳、ワクチン運搬支援などを実施している。

² BHS と地域住民は民族が異なり、使用する言語も異なる。よって双方のコミュニケーションが難しい場合は、本事業スタッフが通訳として補佐した。

下のとおり。

妊産婦健診実績

| 項目 | 7月 | | 8月 | | 9月 | | 10月 | | 合計 | |
|---------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-------|-------|
| 妊婦合計 | 303 | | 315 | | 336 | | 351 | | 1,305 | |
| 妊婦健診数 | 1回目 | 2回目以降 | 1回目 | 2回目以降 | 1回目 | 2回目以降 | 1回目 | 2回目以降 | 1回目 | 2回目以降 |
| | 45 | 69 | 46 | 43 | 72 | 62 | 33 | 36 | 196 | 210 |
| | 114 | | 89 | | 134 | | 69 | | 406 | |
| 実施率 | 38% | | 28% | | 40% | | 20% | | 31% | |
| 産後健診対象者 | 58 | | 73 | | 47 | | 69 | | 247 | |
| 産後健診数 | 29 | | 27 | | 23 | | 5* | | 84 | |
| 実施率 | 50% | | 37% | | 49% | | 7% | | 34% | |

*諸事情により本事業医療スタッフの不在が重なり、10月は十分に実施できなかった。

微量栄養素配布実績

| 品目 | 配布数 | 単位 |
|----------------------|--------|----|
| Nutrivita (マルチビタミン剤) | 99,480 | 錠 |
| Ferrovit (鉄剤) | 98,970 | 錠 |
| Vitamin B1 (ビタミンB1剤) | 4,700 | 錠 |
| Mebendazole (駆虫薬) | 217 | 錠 |

微量栄養素を受け取った妊婦の数

| 月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 計画 | 932 | 909 | 971 | 970 | 3,782 |
| 実績 | 807 | 804 | 896 | 886 | 3,393 |
| 受領率 | 87% | 88% | 92% | 91% | 90% |

リプロダクティブヘルス関連配布実績

| 品物 | 数 | 単位 |
|----------|--------|-----|
| ピル | 2,207 | 錠 |
| 妊娠テストキット | 734 | セット |
| 安全なお産キット | 261 | セット |
| 経口補水塩 | 4,071 | 袋 |
| コンドーム | 19,050 | 個 |

| | |
|--------------------|---|
| <p>(3) 達成された効果</p> | <p>1：地域に根差した母子の健康を増進する活動環境整備 村長や BHS 始め、多くの地域住民が本事業に協力的で、アドボカシー集会でも本事業活動への高い関心と期待が寄せられている。今後養成予定の MNCH プロモーターについても、自分の村のために役立ちたいと高い意欲を持った志望者が多く、地域に根差した母子健康活動が推進される素地が整いつつある。</p> <p>2：保健行政スタッフ（基礎保健スタッフ、准助産師）の育成・技術向上支援 本報告期間に実施した BHS のリフレッシュートレーニングには、対象 16 人全員が参加した。トレーニング前後のテスト結果比較では、70%の正答率が 95%まで上昇したことが確認されており、対象者の知識の再定着に貢献できたと言える。同トレーニングは今後、毎月実施する予定であり、引き続き高い出席率と知識の拡充を期待したい。</p> <p>3：母子保健サービス提供支援 MNCH プロモーターが選出過程にある中、先述の母親グループにより全 114 村で子どもの成長記録活動が実施されており、のべ 8,856 人の子どもの成長を記録した。公的保健医療機関による予防接種活動は計画通り実施されており、本事業スタッフもそれに合わせて通訳やワクチン運搬・BHS の移動といった支援をしていること、また本事業対象地を管轄する公的保健医療施設の BHS 数が若干名増員したこともあいまって、より多くの地域住民に予防接種の機会を提供できた。</p> |
| <p>(4) 今後の見通し</p> | <p>本事業後半期には、MNCH ワークショップ、アクションプラン作成ワークショップ、MNCH プロモータートレーニング、スタディツアー（公共医療機関、活動が順調な村訪問）、緊急患者の搬送基金の設立と運営トレーニングなどの活動を計画に沿って実施する。特にワークショップでは、母子健康改善のために地域で本当に必要な活動は何か、対象者が現状を踏まえて丁寧に考えられるよう、それぞれの実情に即したトレーニングプログラムを策定したい。また、BHS スタッフの育成・技術向上支援も引き続き行う他、AMW トレーニングをスムーズに実施できるよう注力する。母子保健サービスの提供支援については、引き続き BHS や地域住民との連携を保ち、より効果的に実施できるよう取り組む。</p> <p>なお本事業は 3 年間の事業の 1 年目にあたることから、活動を通じて事業コンセプトを地域住民や関係機関に浸透させる最も重要な時期である。一つ一つの活動を丁寧に、適切な時間をかけて取り組んでいきたい。</p> |